



## 認知症について



第一医療部副部長  
兼 脳神経内科部長  
兼 認知症疾患医療センター長

藤本 正也  
ふじもと まさや

人には、動物には無い高い知能があります。この知能が低下してしまう病気が認知症です。

認知症にはいろいろな種類があり、その代表格がアルツハイマー型老年認知症です。アルツハイマーの方の脳を調べると、老人斑ろうじんはんといって小さな染みのようなものがたくさんできています。この成分はアミロイドβペプタという水に全然溶けないヤニのようなもので、この有毒な老廃物が脳に溜まり続けることで脳の神経細胞が死滅し、認知症が進行していくといわれています。そこで、アミロイドβを消す薬の開発が続けられ、最近になりレカネマブという薬が使えるようになったとのニュースがありました。

ただこの薬は、ごく早期の軽症の人で、検査でアミロイドβが脳に溜

まっている人でないと使えませんが、ですから薬で認知症を治せるようになるのは、まだこれからでしょう。

しかし、そもそもアミロイドβが制圧されたとしても、認知症がなくなるのか、個人的には疑問を持っています。人は、歳をとれば記憶力は落ちる定めであり、リタイア後も頭と身体を使い続ける事で衰えを防ぐのが最も効果的な認知症予防だと信じているからです。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



住み続けられるまちづくりを



### 地域おこし協力隊が奮闘 森を守る大切さ、自然を愛でる大切さを 子どもたちに伝えたい

#### 磐田市地域おこし協力隊の 山本真由美さん

磐田市初の地域おこし協力隊として、本年度から活動している山本真由美さん。中山間地域の農林業に携わりながら、地域の活性化に取り組みでいただいています。

#### ※地域おこし協力隊とは

都市地域から活動地域に移住し、地域活性化や農林水産業への従事など、地域協力活動を行うことで、地域力の維持・強化を図る制度です。任期はおおむね1年以上3年以内。

#### 元保育士の経験を生かし 子どもたちに伝えたい

山本さんは、今は主に森林の間伐などで森の保全に務めているほか、地域イベントの企画や運営支援などを行っています。山本さんは「森を守ることは、災害に強い地域をつくることにつながり、地域力の強化につながると思います。また、この作業を行うこ

#### 竹で遊ぶイベントを開催

とで、地域を知り、人を知り、地域の活性化や持続可能な地域づくりにつながると思っています。このことを大好きな子どもたちにも伝えていきたいです」と話してくれました。

今年2月、山本さん主催

イベント「竹で遊ぼう」が園児や小学生親子を対象に開催されました。間伐した竹を利用したテントづくりやクラフト体験です。参加した子どもたちは「竹でこんなことができると」「竹ってすごい」と話していました。山本さんは「未来を担う子どもたちに、自然を愛し、大切にできる気持ちを持ってもらうことが持続可能な地域づくりの第一歩です」と話してくれました。



「竹で遊ぼう」のイベントで  
子教える山本さん